

## 日本の離婚数の変遷



竹田かずき 東京・ウェブデザイナー

### ●離婚には法則があるか

「最近、離婚する人が増えている」——あるとき、私はそんな話題を聞きました。たしかに、最近、私が子どものころよりも〈母子家庭〉や〈父子家庭〉の話題を聞く機会が増えたような気がします。また、私自身はまだ独身ですが、友人の多くは結婚し、その中には早々に離婚した人もいて「なんだか離婚が身近に感じるなあ」と思ったこともあります。しかし、そんなことだけでは、「本当に離婚する人が増えているかどうか」はわかりません。実際はどうなのでしょう。

「離婚は増えているのかいないのか。もし何か変化があったとしたら、そこから何が見えてくるのか」ということが気になっていたとき、たまたまグラフの大家である故・長岡清さんが「離婚に関するグラフ」を描いていたことを知りました。残念ながら、その論文はページが欠落していたり、話題が外国のものから入っ

たりと、私にはちょっと分かりにくいものでした。しかし「なるほど、離婚に関して、グラフを描いてみると面白そうだぞ」と思えてきました。

長岡さんの論文を補足することも考えましたが、それはやめることにしました。以前に幾度か「長岡さんの研究したものを補足しよう」としたのですが、そうすると、どうにも苦しくなることが多かったのです。おそらくそれは、「〈自分自身の問題意識〉と、元にある〈長岡さんの問題意識〉が混在してしまい、結果、ちぐはぐな状態のまま進めることが苦しくなったのではないか」と思います。そこで、今回は長岡さんの資料は忘れ、最初から書いてみることにしたのです。

「離婚」には何か法則性があるのでしょうか。あたらしい発見が見えてくるのでしょうか。良ければおつきあいください。

## ●離婚する人は増えているか？

〈離婚について調べてみる〉とはいっても、最初は何を調べてみればいいでしょうか。私はまず「どれだけの夫婦が離婚しているか」ということが気になりました。ただ、いきなり「離婚した夫婦の数」だけを考えるのは難しいでしょう。そこで「1年間に結婚した数」と「同じ年に離婚した数」を比べながら考えてみようと思います。

### 〔問題1〕

現在(2010年)、1年間の婚姻数(=結婚したカップル数)は70万組でした。それでは、同じ年の離婚数はどれくらいだったと思いますか。

ア. 1万組以下      イ. 10万組くらい

ウ. 25万組くらい      エ. その他

ここでいう「婚姻数」「離婚数」は、日本国内の日本人の婚姻・離婚を指します。夫妻の一方が外国人の場合も含まれます。初婚・再婚どちらも含んでいます。

\*以後、データ出典として次のものを引用しています。

『平成 22 年人口動態統計』(統計情報部)

『離婚に関する統計』(厚生労働省大臣官房統計情報部, 2009)

『婚姻に関する統計』(厚生労働省大臣官房統計情報部, 2006)

『日本国勢図会』(矢野恒太記念会, 各年)

『大日本帝国統計年鑑』(内閣統計局, 各年)

『人口動態統計 昭和 18 年』(内閣統計局)

---

2010 年の離婚数は、25 万組でした。だいたい同じ年の婚姻数の 3 分の 1 の数です。

私は、この数を知ってかなりビックリしました。以前離婚した友人が「最近、3 組に 1 組は離婚してるから、そう特別なことじゃないよ〜」と明るく言っていたのですが、そのときはにわかには信じられないくらいでした。しかし、実際に調べてみると、本当にそれくらいの離婚数だったのです。

ただ「婚姻数の 3 分の 1 の数が離婚している」とは言っても、2010 年の〈婚姻数〉と〈離婚数〉とを単純に比較した場合です。「結婚後  $\varepsilon$  0 年経ってから離婚する」という夫婦もいるでしょうから、あまり単純に考えない方がいいようにも思えます。そこで、今度は 2010 年の離婚数における「結婚から離婚までの年数」を考えてみるのはどうでしょうか。調べてみると「同居期間別の離婚数」

という統計がありました。これをみてみることにします。

## 〔問題2〕

現在（2010年）に離婚した夫婦のうち、いちばん多かった同居年数は何年くらいだと思いますか。

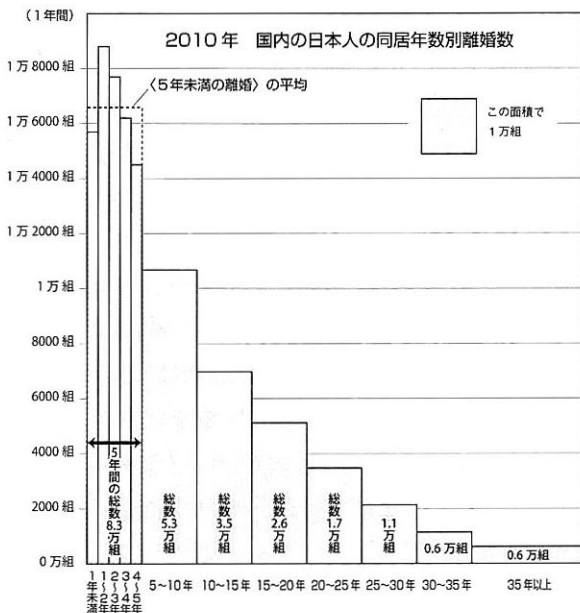
ア. 1～5年      イ. 5～10年

ウ. 10～20年    エ. 20年以上

このようなことを話題にすると、「2番目に多い年数も考えてみたい」という意見が出てきました。もし気になる人がいれば、〈2番目に多い年数〉も考えてみてください。

次のグラフをご覧ください。

これは、同居年数順に2010年の離婚数を並べたグラフです。



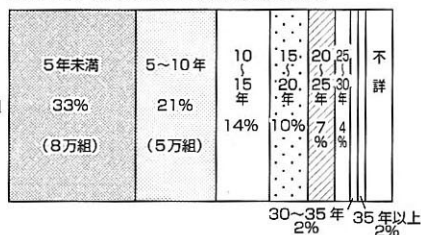
5年未満は1年ごとの数値があったのですが、それ以後は5年ごとまとまった数値しかありませんでした。そのため、こんなグラフになっています。

離婚までの年数は〈5年未満〉が最も多いのです。その中でも〈1～2年〉が一番多くなっています。〈1～2年〉以降は、どんどん少なくなっています。

帯グラフで描くと右のようになります。

〈5年未満の離婚〉は離婚全体の3分の1を占めています。具体的には8万組です。2010年の婚姻数

2010年 国内の日本人の同居年数別離婚数

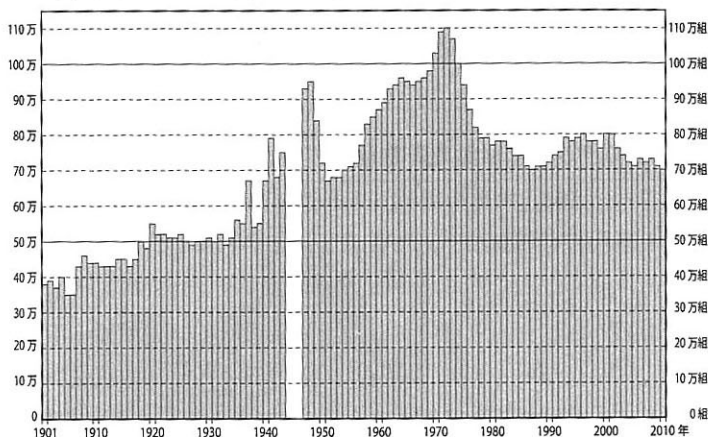


が70万組で、同じ年の〈5年未満で離婚した数〉は8万組ですから、これらの数値が急激な変化はしないと考えると「結婚したカップルのうち、だいたい10組に1組が、5年未満に離婚する」と言えそうです。

## ●昔の離婚数

「10組に1組が、5年未満に離婚する」というのは、なんだか多いように思えます。それでは、以前は離婚数はどれくらいだったのでしょうか。今より多いのでしょうか、少ないのでしょうか、それとも同じくらいでしょうか。それを考えるためにも、まずは過去から現在までの婚姻数を見てみようと思います。次ページ上のグラフにまとめました。

国内の日本人の婚姻数（片方が外国人を含む）

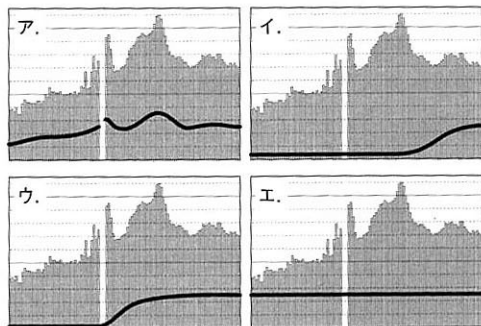


婚姻数は、戦後すぐと、〈第1次ベビーブームで生まれた子ども〉の適齢期である1970年代に盛り上がっています。最近では以前に比べれば減っていますが、70～80万組の間を行き来しています。

〔問題3〕

この婚姻数のグラフに離婚数を重ねてみると、どうなると思いますか。

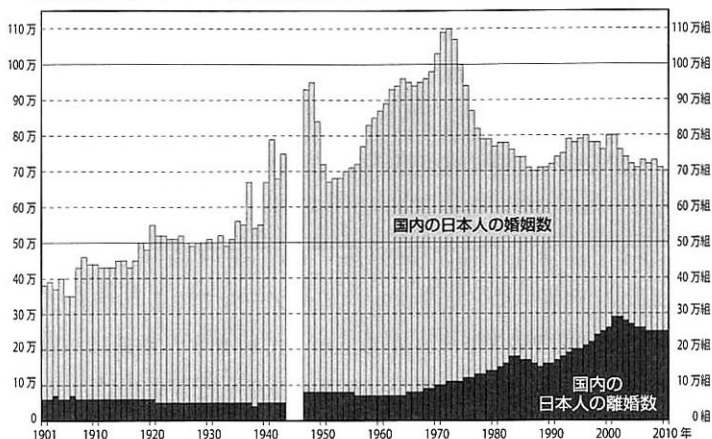
- ア. 婚姻数と同じような動きをしているだろう。
- イ. 最近になって増えただろう。
- ウ. 戦前は非常に少なく、戦後になってから増えただろう。



エ. 一定数を保っているだろう。

オ. その他

婚姻数のグラフに離婚数を重ねたグラフが次のものです。



どうでしょうか。婚姻数のグラフと同じ形ではないようです。また、「戦後になって増えだした」ということもなさそうです。1970年くらいから増加傾向が始まっています。「以前は少なかったが、最近になって増えてきた」と言えるでしょう。

戦前は、だいたい婚姻数の10分の1程度です。これは今に比べれば低い数字ですが、なんとなく「戦前はもっともっと離婚数が少ないのではないか」と思っていたので、少し意外でした。

#### 〔問題4〕

先ほど「2010年の同居年数別の離婚数」のグラフを描きました。それでは、同じことを〈過去の離婚〉でみてみるとどうなるでしょう。たとえば「近年離婚が増えたのは、結婚してすぐに離婚する

人が増えたからだ」というのであれば、過去は〈5年未満の離婚〉は少ないことになります。そんなことはあるでしょうか。あなたは どう思いますか。

今から25年前(1985年、昭和60年)と、50年前(1960年、昭和35年)のグラフを描いてみようと思います。107ペのようなグラフを描いたとき、今度はどんなグラフになると思いますか。割合としてはどれくらいだと思いますか。

ア. 以前は、〈5年未満の離婚〉は少なかつたらう(10~20% くらい)。

イ. 以前も、やっぱり〈5年未満の離婚〉が多かつたらう(だいたい30%くらい)。

ウ. むしろ、以前はもっと〈5年未満の離婚〉が多かつたらう(50%以上)。

1985年(昭和60年)は…… (            )

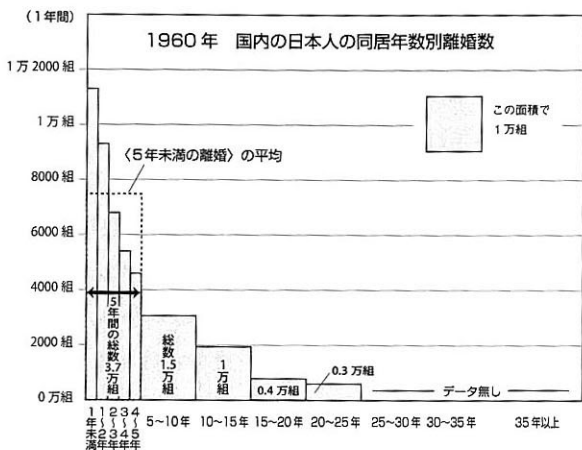
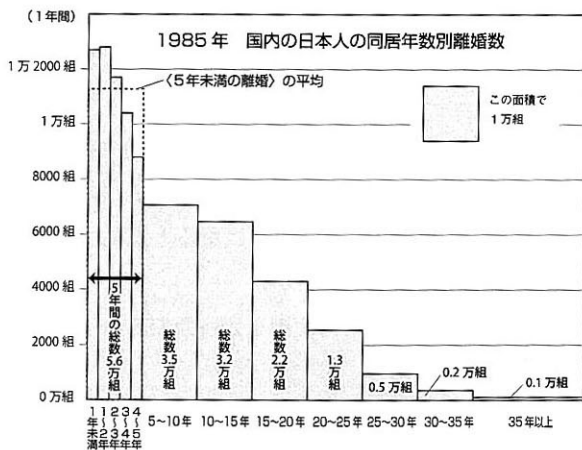
1960年(昭和35年)は…… (            )

---

次ページのグラフは、1985年と1960年の同居年数別の離婚数です。

1985年も、1960年も、〈5年未満の離婚〉が多かったのです。私はこのグラフを描きながら「へ～！ 昔も〈5年未満の離婚〉が多いんだなあ。これは〈社会の法則〉と言えそうぞ！」と、わくわくしました。しかし、描き進めるうちに、別の驚きがありました。2010年と1985年のグラフはよく似ていますが、1960年は、〈5年未満〉に比べ〈5年以上〉が少ないように感じたのです。





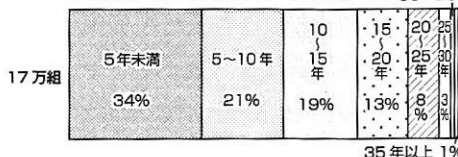
割合をわかりやすくするために、1985年、1960年、2010年の同居年数別離婚数を量率グラフにしてみました(次へ)。

いかがでしょうか。  
 割合で見ると、1985  
 年は〈5年未満の離婚〉は34%で、近年  
 とほぼ同じですが、  
 1960年は〈5年未満  
 の離婚〉は54%で  
 した。これには、また  
 しても驚いてしま  
 いました。まさか「過  
 去の方が〈5年未満  
 の離婚〉の割合が多  
 い」とは思わなかつ  
 たのです。

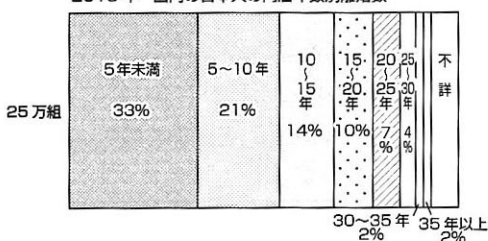
1960年 国内の日本人の同居年数別離婚数 15~20年 6%



1985年 国内の日本人の同居年数別離婚数 30~35年 19%



2010年 国内の日本人の同居年数別離婚数



離婚の総数は、1960年の方がずっと少ない（7万組。2010年は25万組）ので、「昔は、結婚してすぐに離婚する人が多かった」というわけではありません。しかし、〈5年未満の離婚〉の割合が半分以上ということに、私はとても興味をひかれました。

「どういうことなのか」「もっと分かりやすいグラフを描けないかな」などと考えをめぐらせていると、不意に「もしか、最近離婚数が増えたのは、〈5年以上の離婚〉が増えたからではないか?」と思えてきました。何年も連れ添った夫婦が別れる〈熟年離婚〉という言葉も、近年よく聞くようになったと思います。実際はどうなのでしょう。

それを明らかにできるように、110への長期統計のグラフを〈5

年未満の離婚」と〈5年以上の離婚〉を色分けしてみました。それが裏表紙のグラフです。

いかがでしょうか。塗り分けてみると、近年、〈5年未満の離婚〉が増える以上に、〈5年以上の離婚〉が増えているのが見えてきました。「そうではないだろうか」と思いながら描き始めたのにもかかわらず、改めて驚いてしまいました。

ちなみに、グラフの背が小さくて見辛いですが、50年よりもっと前、戦前もやはり〈5年未満の離婚〉が50%以上です。それどころか、60%以上の年もあります。

色分けすると、1970年からの〈5年以上の離婚〉の増え方がより鮮明になった気がします。このあたりが〈社会の変わり目〉なのでしょうか。1970年ごろと言えば、現在の「男女雇用機会

---

均等法」の前身「勤労婦人福祉法」が施行されたころです（1972年施行）。女性の権利の拡大が何か関連しているのでしょうか。そんなことを想像したりもしましたが、憶測の域をでません。

今回のグラフに合わせて、他にも「男女の給料格差はどのような変遷があるのか」とか「母子家庭，父子家庭への助成金はどうなっているのか」なども調べたくなりました。そうすることで、また新しいことが見えてくるかもしれないし、見えてこないかもしれません。いつか、そのようなこともまとめてみたいと思っています。

## ●身近にある社会の法則

「離婚の数に法則はあるのか」，「離婚の数から社会は見えてく

---

るのか」と始めたテーマでしたが、「離婚は、結婚後5年未満がもっとも多い」「ただし、近年は〈5年以上の離婚〉がとくに増えてきている」ということが見えてきたのではないのでしょうか。

最初に「長岡さんの論文をキッカケにした」と書きましたが、その論文の最後には、こんなことが書かれていました。

「〈離婚のような個人的な感情がもとになったものでも、ある時期をとってみると法則性が見える〉…（略）…ということが面白くて資料にしてみました」

なるほど、考えてみれば、たしかにその通りです。離婚は経済的な理由などもあるので、「個人的な感情だけ」とは言い難いですが、しかし、基本的に〈夫婦2人が決めたこと〉であるはずで、そのような個人的なことであるにもかかわらず、そこに法則性があるというのは、とても興味深いことだと思います。

長岡さんには、『社会にも法則はあるか——誕生日をめぐる法則』（板倉聖宣と共著。仮説社）という著書があります。この本は、多くの人にとって身近な「誕生日」「誕生月」、はたまた「結婚」などの話題から、「見えているようで、実はよく見えていなかった〈身近な社会〉の姿」や〈社会の法則〉を浮き上がらせていくような本です。今回の「離婚数の変遷」は、その続編と言えるようなものになったと思うのですが、どうでしょう。

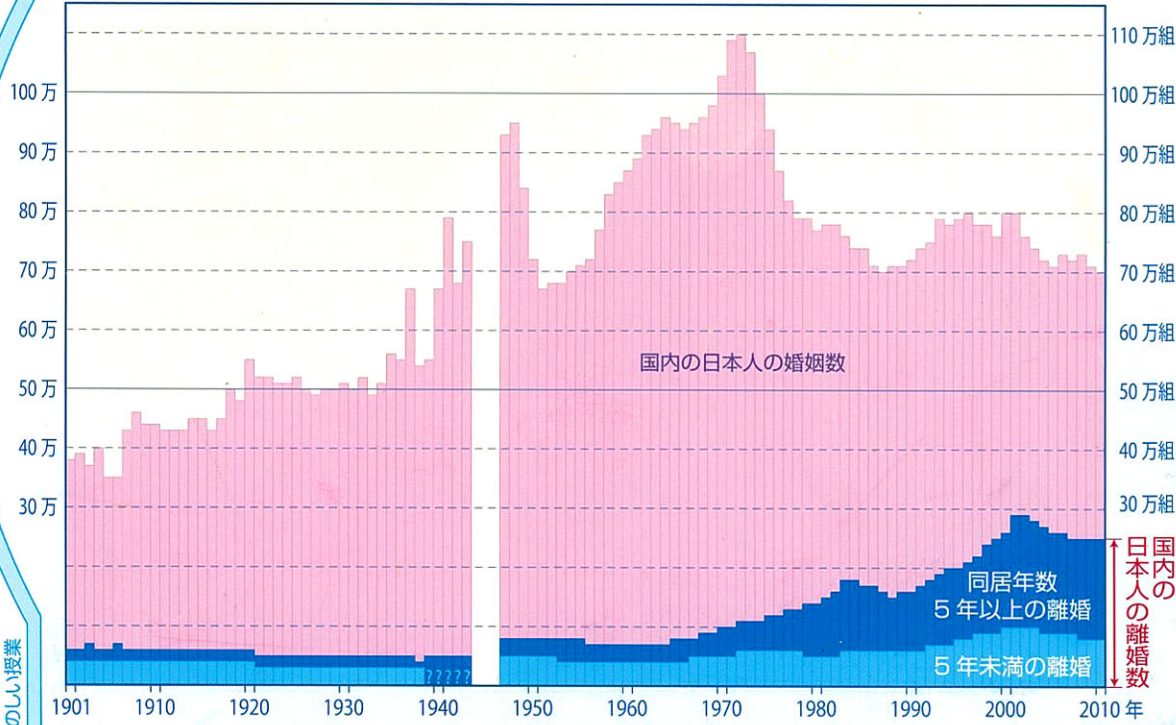
\*

この論文をまとめるにあたり、ニコニコたのしい授業サークルや名古屋西仮説サークルでとくにご意見をいただきました。その他ご意見くださった方や、またなによりもキッカケをくださった長岡清さんに感謝いたします。ありがとうございました。

グラフで見る世界——301

日本の同居年数別離婚数の変遷

最近では珍しくない〈離婚〉。国内の婚姻数に同年の離婚数を重ねたグラフを描いてみました。「離婚までの同居年数」に注目すると、特に近年は〈5年以上の離婚〉の増加が見えてきます。本文104頁参照。©Takeda Kazuki, 2013



4910060910736  
00705

定価740円

雑誌06091-07  
本体705円